

明治31年に施行された民法750条には「夫婦は婚姻の際に定めるところに従い、夫又は妻の氏を称する」と定められ、夫婦同姓が義務づけられています。

結婚すれば夫側の姓を名乗るのが当たり前と考えていた私は、何ら疑問をもちないまま改姓しました。すると、様々な面に不利益・不都合を体験することになります。そ



1年間ご苦労様でした

令和6年度 運営委員

矢掛公民館生活部	河上 晴美
矢掛公民館生活部	灰原 和子
三谷公民館生活部	田中 昌子
山田公民館生活部	斎藤 安子
小田公民館生活部	武田三枝子
やかげ要約筆記サークル	岡本 緑
やかげ要約筆記サークル	田中 美子
山田地区	池田 輝美
矢掛地区	武井 玉美
三谷地区	平山 美加

世の中には、常識として信じられていることが思いがけず多くあることに気付きます。当たり前だとされる常識が、誰かの新しい意見や問題提起によって覆ることも珍しくありません。多様性が重視される現代では、疑わしくなっている常識に対しては、新たな石を投げこんで波紋を起すことが大事かもしれません。

今、「選択的夫婦別姓制度」に向け、国会でも議論の対象になっていま

れまで公文書等に使用していた姓が使用できなくなり、一つ一つ改姓の手続きをしないといけません。中でも最も辛い思いが、これまで旧姓で積み上げてきた実績が切り取られてしまう感覚でした。ここからまた新たに実績を残していかなければならないという思いです。

婚姻制度や家族の在り方に関する重要な問題なので、国民の理解の基に進められるべきですが、婚姻関係の夫婦が、強制されず、改姓するかどうかを自ら決定する選択の自由を認める方向に進んでほしいものです。今後の動向を見守っていきます。

初めての

議会傍聴は、ワクワクの興味深い体験でした。

議会傍聴体験

令和6年度 事業・活動

5月15日	総会・講演会
6月7日	矢掛探案「瑞雲寺」「吉備真備公園」
11月23日	第13回やかげ女性交流会
12月21日	男女共同参画推進セミナー
2月1日	町長さんを囲んでのやかげトーク
4月10日	機関紙「花みずき」第26号発行
6・9・12・3月	議会一般質問傍聴
年間	役員会 8回
	運営委員会 8回

男女共同参画推進セミナー

スポーツジャーナリストの増田明美さんを迎え「スポーツで考える男女共同参画」をテーマに講演会がありました。

オリンピックに女子初の陸上選手として出場した岡山県出身の八尾清江選手は、女性ということで世間から冷たい目で見

られたそうです。それを糧に彼女は、女性がスポーツ界で活躍するための礎を築きました。

現在、女性がスポーツするのは特別ではないことを考える中、「男だから女だからではなく、個人として尊重し合える社会に近づいているのでは」と思いました。

また、増田さんは岡山、矢掛、町長、司会者の情報をサーマで調べ、テレビで耳にする「あの細か過ぎる解説だ」と思わずほくそ笑んでしまいました。

観客を巻きこんでの講演は楽しく、あっといふ間の時間でした。

(河上 晴美)

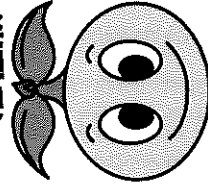
傍聴の際は、氏名を記入し、質問の一覧表をもらいます。

質問内容は、少子化に伴う小中学校の在り方、人口減少がもたらす国保会計、上下水道の現状、空き家問題、鳥獣対策、矢商跡地利用、かわまちづくり事業等、多岐に渡ります。財務状況の説明で、国保料金・上下水道料金の値上げも止むを得ないと理解できるものでした。

町議は、地域の小さな困り事から町財政・教育方針など大きな問題まで、熱心に住民の声を届けてくれます。傍聴はハードルが高いと思っていたが、生の質疑応答を聴いていると新鮮で、町の現状をより深く知ることができました。皆様にも、マナーを守っての傍聴をお勧めします。

(斎藤 安子)

かんぎょうくん EM活性液



講演会

ゴミの減量化

環境を考える会「あめんぼ」

副会長 文屋 幸さん

EM(有用微生物群)との出会いから、環境を守る手弁当で活動を続ける文屋さんを講師に迎えました。

ゴミの3割を占める生ゴミの減量方法の一つ、コンポストを使った、EMボカシの有効な活用の

仕方を聞きました。

ニンシンの切れ端やタマネギの皮、生ゴミをコンポストに入れます。そこへ、EMボカシを振りかけ、空気に触れないように中蓋をしっかり閉めて、直射日光の当たらない場所に2週間程度置けば、微生物生まれの堆肥の完成です。畑の作物、庭木に利用できます。

EMは、人間にも自然環境にも役立つ有用微生物です。EM活性液は、台所の油污、便器の汚れがつきにくくなり、いやな臭いを防いでくれます。ペットの糞尿などの臭気、毛のデコッシーにも利用できます。

ゴミの減量化は、身近な環境を守る持続可能なシステムとして大切です。取り組むのは私たち一人ひとりで。

(武田三枝子)

矢掛探索

吉備保光会副会長の安藤一美さんと、公園を守る会会長の小原勉さんが、公園の案内をしてくださいました。

吉備真備は、中国で儒学・天文学・歴史などを学び、735年に帰国し、奈良時代の国政を担ったこと、功績を後世に残したこと、町が公園として昭和42年5月に開設し、約

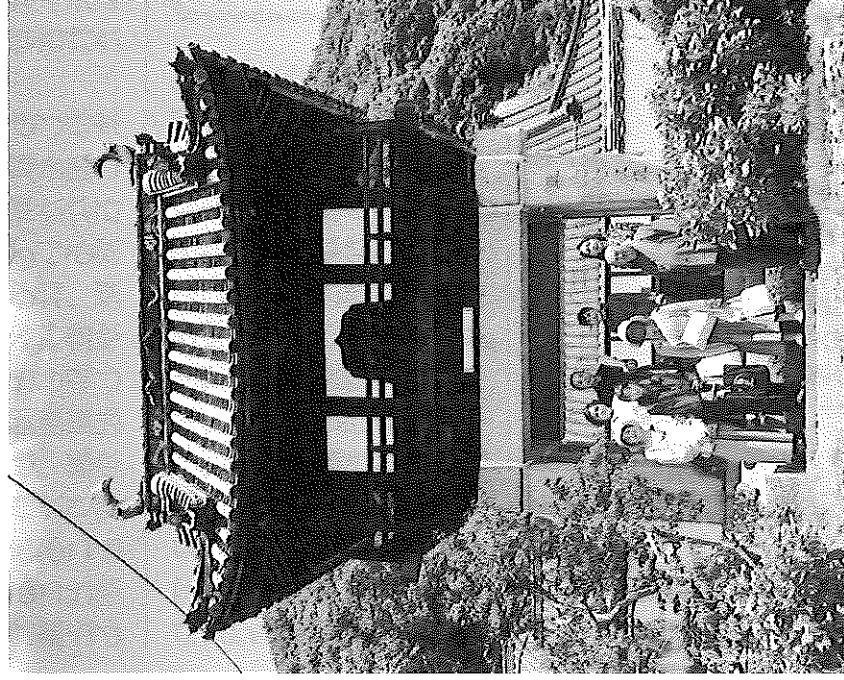
3万㎡の広さで完成したこと。高さ6.5mの真備公の銅像や、絵巻石屏風、大碁盤、日時計などを建立したこと。囲碁は、真備公が唐の都長安から持ち帰り、普及したことなどの説明がありました。

また、吉備様は学問の神様として、正月・受験シーズンには参拝者が多く、お守りを授けたり、

総馬を供えたりしていると聞きました。

当日は、日時計がくまりと正確な時刻を指す晴天でした。私の生まれ育った地元で、吉備公祭には、毎年子どもや孫を連れて行っています。二人の話を聞き、改めて吉備真備公の偉大さを知りました。

(田中 豊子)



豊とした空気の中、立派な山門を入り、紫陽花の寺として知られる龍王山瑞雲寺へ行きました。

瑞雲寺は、地域の守護「石鏡殿王大権現」様を護る寺です。仏教、禅の教えを基に、座禅会や写経会、あじさい植樹祭など境内を広く開放しています。

「集まった人々が縁を

つなぎ気盛に集い学べる語り合える寺を目指している」と語られる住職の想いが伝わってきます。住職の話がのりやもてなしから、仏教を身近に感じ、改めて感謝の念が湧いてきました。

山道の中腹に石造りの鳥居があり、奥の院、巨岩が重なり合つ石鉄様の御神体があります。山道

を20分ほど登れば、矢掛の町が一望できるそうです。夏風と元氣はいりませんが、是非パワーアップして参拝したいと思いました。

住職とゆめたり話しながら、時間を忘れ、またエネコキーチャージしたいと思つてました。

(武井 玉美)

たわやかトーク

少子高齢化が進む影響での問題が提起され、終始和やかで有意義な時間となりました。

定額タクシー制度は、「ふれ愛バス」の利用減少に伴い試行開始されています。1月末現在登録者319名、65歳以上が9割です。本年9月までの利用結果を参考に、今後の展開を考えるとの回答でした。買物難民取り組みの一環として期待しています。

小学校統廃合は避けて通れない問題です。「地域のコミュニティーとして必要」との住民の声か

ある中、適正な教育環境が維持できないとなれば、子どもたちの未来のため、学校・地域・保護者が連携し、豊かな学びと社会性を身に付ける場として、小学校の統廃合は、今後重要な課題であると思いました。

(灰原 和子)

.....

今年のたわやかトークは、今までと違う雰囲気でのスタートでした。

発表者は緊張気味でしたが、話が進むと分りやすかったです。質問に対して、一方的にならず、私たちの話を聞きな

がら、町長・副町長が丁寧に答えてくださり、穏やかに会が進んでいきました。

中でも、小中学校の問題点を、危機感を交え現状を訴えられた場面が印象的でした。たわやかトークは若い方が参加してほしいと思つた幕でした。また、町議の深く掘り下げた質問に、内容が分りやすくなった部分もありました。たわやかトークは町長と直接話せる重要な会として、町民に周知される必要があります。

最後は、町長・副町長自ら、机椅子の上付けぎスタンプと共に和気あいあいと終わらせ、今までと違ったたわやかトークでした。(平山 美加)



交流会に向け、8月末から協議を重ねました。出演団体の決定(私たちも出演)・依頼書送付に始まって、参加費、発表時の段取り等細かく決定し、協力して進みます。

決定事項、役割分担を確認し、新聞紙を使ったエコバッグ作りもやること決まり、各自手作りして持ち寄ることにになりました。

エコバッグは手や指を熏くし、苦勞しながらも、徐々に早く作れ

るようになり、楽しんできました。

前日午後、机や椅子をセッティングし、エコバッグにお土産を詰めました。その後、出演する朗読「モモタロー・ノ・リターン」を練習し、北風が吹く会場を後にしました。

当日は、予定外の方が多く来られ、予備の椅子40脚では足りず、空いた椅子を回すほどで驚きました。交流会をして良かったと実感しました。

(池田 輝美)

編集後記

く優しさの70年
今までも
これから

「矢掛町合併70周年記念年」で、様々な行事のあった中、女性連の活動も充実した業績を残しました。

矢掛探索では、瑞雲寺、吉備大神宮を巡り、女性交流会やたわやかトークなど、有意義で楽しく学べる機会となりました。

女性連の活動を支えてくださった皆様、ありがとうございました。(田中 美子)